

## 「心を育む給食週間」での話

皆さん、今日も美味しく給食をいただいていますか？

今週金曜日（明日）までは、「心を育む給食週間」です。様々な掲示や校内放送での呼びかけ、大豆の箸つかみなどのコーナーもあって、校長先生もチャレンジしてみました。豆をなかなかつかめないでいると、「いろんなお友達がぼく・私できるよ」と言って、つかめるところを見せてくれました。とっても上手な箸つかいで驚きました。

ぜひ、皆さんも挑戦してみてください。

さて、この学校給食・・・、日本で最初に学校給食が行われたのはどこか知っていますか？ 実は私たちの住む「山形県」の海近い鶴岡市が学校給食の始まりの場所なのだそうです。明治22年 今から130年前のことです。

その当時、家が貧しく、お弁当を持ってこれない子どもがたくさんいたので、お寺の一角で小学校の勉強を教えていた、お坊さんが、「おにぎり・焼き魚・漬け物」といった昼ご飯を出したのが始まりだと言われています。

今では当たり前のようにいろいろな食べ物を誰もが食べることができていますが、昔は、なかなか食べる物が手に入らない時代もあり、育ち盛りの子どもたちに少しでも栄養のあるものも提供したいと考えられたのが現在の給食です。

鶴岡市の小学校では、今でも年1回「思いやりの心や優しさを感じ、忘れないでいてほしい」という願いをもって、塩おにぎり1個と焼き魚、漬け物の給食が出されています。

さて、食事をはじめる時のあいさつ、そして終わりのあいさつは何ですか？

そう、「いただきます」「ごちそうさまでした」ですね。

特に、この「いただきます」にはどんな意味があるのでしょうか？

その理由は2つあるのです。一つ目は

**「食事にかかわってくれた方々への感謝」のあいさつです。**

料理を作ってくれた方、配膳をしてくれた方、野菜を作ってくれた方、魚を獲ってくれた方など、その食事にかかわってくれた方々へ感謝のこころを表して「いただきます」をいっているのです。

そしてもう一つは**「食材への感謝」**です。

料理の材料になる肉や魚はもちろんのこと、野菜や果物にも命があると考え、「〇〇の命を いただきさせていただきます」と、それぞれの食材に感謝してのあいさつでもあります。

そして、食事が終わると、「ごちそうになりました」「ごちそうさま」と感謝のあいさつをするのです。「いただきます」も「ごちそうさま」も、とっっても心が温かくなるような、優しく丁寧な言葉ですね。

これからも、その「あいさつの意味」をしっかりと考えながら、学校での給食の時間は勿論のこと、家での食事の際も、「食べることのできる幸せを感じながら」、食事を楽しんでほしいと思っています。

以上、「心を育む給食週間」にちなんで、校長先生から「学校給食」についてのお話をさせていただきました。皆さん、今日の給食もおいしくいただきましょう。